

令和元年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第五中学校第3学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	どの観点で見ても全国の平均点を上回ることができている。しかし、「書くこと」の領域、「書く能力」の観点においては、他の領域などと比較しても差が小さい。正答率自体は悪い数字ではないため、易しい問題であったと考える。記述式の問題にも取り組める生徒が多いため、無解答率も多くて2.2%と、極めて少ない。一方、短答式となると、必要な情報の取捨選択ができないことが予想されるため、出題者の意図を含めて考えるように、問題に取り組ませたい。	授業においては、書くことに抵抗がない生徒が多い一方、正答率に課題があるとすると、読み取りの能力に課題があるように思われる。そのため、自身で重要な部分を発見できる力を身に付けさせる授業を行っていく。特に説明文では要約をしたり、語彙力を高めるように語句の確認を逐一行うなど、丁寧に取り組み、読み込む姿勢を醸成させていく。	
数学	全体的にはとても基礎的な知識・技能が身につけている生徒が多く、授業に対しても真面目に取り組んでいる。しかし、数学の応用に対する苦手意識をもっている生徒が多い。学力調査からも、知識、技能は身につけているが、見方・考え方が身につけていない生徒が多いことがわかる。特に、グラフや資料を分析して自分の考えをまとめる力や今までの知識をいかし説明問題を解く力が不足している。	習熟度別少人数授業の利点を活かし、基礎的内容を重点的に行うクラスでは、今まで以上に反復練習の機会を多く与え、基礎基本の定着を図り、証明問題などの応用でも自分の考え方を整理してまとめていく力を身につけさせていけるようにする。発展的内容を行うクラスでは、グラフや資料の読み取りをはじめ今まで学んだ知識を活用して自分の考えをまとめて発表していく指導に力を入れていくようにする。	
社会	社会科に対しての関心が高く、発言や意見交換も活発に行われ、とても意欲的に授業に取り組んでいる。加えて、知識が身に付くことで、発展的な内容に興味を持つ生徒も増え、「なぜ」、「どうして」と考えることができる。しかしながら発表者に偏りが見られることから、もっと多くの生徒に発表できる場を設けたい。そして今後は、社会的現象を実生活に当てはめ、自らのこととして捉えるとともに、考える力を身に付けさせていきたい。	生徒たちが授業の中で自分の意見を発表する場面を設け、多くの人の前で自分の意見や考えを発信することに慣れさせていきたい。同時に社会的現象と実生活を結びつけられるように授業工夫に取り組むとともに、当事者意識を持たせて考える力を養ってきたい。	
理科	授業に関心を持って取り組む生徒は多いものの、学習内容が難しくなっていることから、苦手意識が高くなっていたり自分の解答に自信が持てなかつたりする部分が多く、授業中の発言は少なくなっている。昨年度の学力調査の結果にあったように、読み解く力や解決する力を身に付けさせるように、実験の授業中や演習の時間は教え合うシステムを取り入れているが、自分の力で解けるようになるまでには、もう少し時間が必要であると感じている。	個人での発言が難しいので、小さなグループを作り、発言できるように工夫をしていく。 ・クラスでの発言がなかなかできない生徒には個別に対応できるように、放課後等に質問できる時間を設けるようにする。 ・総合的に解決する力を身に付けさせるために、グループで解決できる時間を設けながら、最後は個人で考え解決できるように授業(授業の最後にミニテスト等を行う等)を展開する。	
音楽	どの単元にも意欲的に取り組む生徒が多い。合唱等の実技では音も短時間で取れるようになった。そこからどのように曲を作り上げていくか考えさせていくことは今後の課題である。言語活動としての表現も苦手な生徒も多いので、音楽表現についてさらに学習する時間を設ける。	実技での表現の能力を伸ばしていくために、合唱などを通して、自分たちで工夫をして曲を作り上げられるように助言をし指導していく。そのための楽譜や記号もその都度教え、より良い表現ができるようにする。また、ICTレコーダー等を使用し録音するなどして客観的に自分たちの演奏を聴かせることで課題に気付かせる。お互いに言葉にすることで共有できるような機会を作る。	
美術	・大人しく真面目に取り組む生徒が多い。 ・細かい作業が苦手な生徒が少なくない。 ・自分の表現活動としては少し消極的な面もある。 ・一斉指導は入りやすいので、一斉指導を簡潔にし、個別指導及び支援の充実を図ることが課題である。 ・授業内でいかに鑑賞を取り入れるか。	・机間個別支援において、個々に応じた課題を的確に提示する。 ・黒板及び大型画面に作品の参考又は手順、目標とすべき表現などを常に提示し、いつの時点でも確認できるようにしておく。 ・PC室、図書室などを活用して鑑賞を多く取り入れる。又、教科書等を用いて授業内導入鑑賞も取り入れ、鑑賞の授業の充実を図る。	
保健体育	体育分野については関心が高く、意欲的に活動できる生徒が多い。各自が個人の目標を持ち、運動が苦手な生徒でも、自分で考え、課題に取り組む、解決しようとするのが課題である。保健分野では、健康と病気について理解し、生活の中で実践できる力を育てる。	授業のなかで、生徒が自分達で考えて解決していく展開を進めていく。個人で目標設定をしたり、種目を選択することで、さらに意欲的に自分に合った授業の内容、進め方を考えていく。本年度もオリパラ教育に取り組む、幅広い視野を持つ生徒の育成に努める。体育分野、保健分野から、健康・安全に関して、深く追及する。	
技術・家庭	【技術】全体的に落ち着いた態度で取り組んでいる。少ない授業の中、課題学習を取り入れる中、提出しない生徒もみられる。遅れても出す姿勢を促している。 【家庭】授業に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。また、学習内容を自分の成長を振り返りながら深く考える生徒も多くなる。現時点の生活だけでなく、先を想像して将来の生活を具体的にイメージしていく必要がある。	【技術】PC室の利用による実習において課題への取り組みに対し、操作・しくみの理解に向け個々の進度に注視する。 【家庭】清瀬市など各自治体の取り組みや地域の助け合いを紹介するとともに積極的に新しい情報を得よう指導する。映像資料や体験を通して実感を伴って理解できるよう指導の工夫をする。	
外国語(英語)	学力調査の結果から、「聞く力」を苦手としている生徒が目立った。まとまった英文を聞いて概要を理解する点が弱っていた。また、書かれた内容に対して自分の考えや意見を書くことについて無回答の生徒が多かった。自分の考えや意見を英語で表現することが今後の課題である。	聞き取り問題を授業の中で取り組み、実践していく。スピーチテストなどを行い、自分の考えや意見をまとめ、人前で発表する機会を設ける。 まとまった英文を自分の言葉で要約できるような練習を導入していく。	
総合	総合的な学習のテーマである「生き方について考える」を元へ、知識を踏まえた進路学習だけではなく、これからの人生の生き方も意識しながら指導を行ってきた。これからも人生を切り開いていく進路指導に重点を置いて取り組んでいきたい。また、「救急救命講習」や「ハンセン病資料館」訪問を通して、命の大切さ、かけがえのない存在として自己理解や自尊感情を育てていきたい。	「進路学習」においては、進路説明会で進路指導主任による講話を保護者と共に聞かせたり、自己PRカード作成では、自己を見つめ、自己理解を深める。「救急救命講習」では、命を救うための実習を通して命の大切さの充実を図る。「ハンセン病資料館」訪問では、事前・事後学習としてDVDの活用や学校図書の利用等を通して、人権教育に取り組んでいく。	
道徳	読み物を読む前に、授業で取り組むテーマをイメージさせてから、教材を読み、中心発問について自分の意見を他者に伝え、他者の意見を聞き、グループ討議し、クラス全体で様々な意見を出し合うスタイルが定着してきた。授業スタイルがパターン化してきてしまっているため、映像等の視覚的教材を取り入れたり、ワークシートを工夫するなど今後の課題である。	授業の流れの中で、グループでの話し合いの仕方や発表の方法(板書、ホワイトボード等)、ワークシート等を変化させて、生徒の思考を高めていく。	